

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年2月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3470205885		
法人名	有限会社 エーケン企画		
事業所名	グループホーム ヴィーヴル祇園		
所在地 (電話番号)	広島市安佐南区祇園4丁目8-5 (電話) 082-874-2707		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成22年2月18日	評価確定日	平成22年3月4日

【情報提供票より】(22年2月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 16 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	2階～3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 4200 円
敷金	有(250,000 円)	償却2年	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,800 円		

(4) 利用者の概要(2月8日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 69 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小島クリニック。奥本皮膚科。衣笠歯科。
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社 エーケン企画により平成17年6月に開設された2ユニットを有するグループホームである。広島市郊外の山並みを背景とした住宅地に立地し、特徴のある落ち着いたお洒落な建物である。同ビル1階には協力医療機関の小島クリニック(内科・外科・消化器科・循環器科・リハビリテーション科)があり、2階と3階が当ホームとなっている。24時間の医療連携体制、週1回の定期診療、一人ひとりの状態に応じたリハビリ受診、看護師の資格を有する職員など、充実した医療支援も魅力である。ホーム独自の理念①『利用者様が家庭的な雰囲気の中で笑顔で過ごしていただけるよう支援します』②『人生の大先輩として尊敬し、入居者様一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアを心がけます』③『地域の皆様との関わりを大切にします』を掲げ、全職員が理念の下に志を共有し、利用者に尊敬の念を保ち、利用者の立場に立った家庭的で温かいケアを目指し取り組んでいる。又、地域とのふれあい交流を大切にしながら、穏やかに楽しく過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の主な改善課題は、定期的な避難訓練実施及び、万一の場合の地域協力体制の確立を望むということであった。ほぼ改善に向かっているが、更に一步踏み込んだ改善が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価の意義や目的を、よく理解しており、評価の取り組みは全職員が参加し、ミーティングを重ね各ユニットの評価を一つにまとめたものとなっている。今後は、各ユニット毎の実情を自己評価に表現し、各ユニットの個性や特徴がうかがえる、それぞれの自己評価となることを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回のペースで開催され、家族の参加も多く、勉強会の機会も同日にもうけるなど、有意義な会議となるよう工夫されている。この運営推進会議などを通じて、災害発生時に備えての地域協力体制の確立に対する話し合いがもたれる事を期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置、苦情連絡先(事業所と第三者機関)を重要事項説明書に明記し、家族の面会や報告時に意見や要望を気軽に話せる環境づくりを職員は心がけている。苦情等が寄せられた場合は、ミーティングで話し合い、職員間で常に連携をとり、改善に繋げている。又、利用者一人ひとりの様子を項目別に分かり易く記した『日々の様子』を家族に送付している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会行事への参加、お祭りでは御神輿が来るなど、地域とのふれあい交流を大切にしている。又、周辺の清掃活動などを通じて、近隣地域の方々との交流も深めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に全職員で考えた理念を掲げている。家庭的な環境の中で、地域に愛され地域と共に暮らせるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やスタッフルームの見え易い所に理念を掲示している。毎日朝礼時に職員は必ず唱和し、日々のケアやミーティングを通じて職員間の共有化がはかられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事の参加、お祭りでは御神輿が来るなど地域との交流も行っている。敬老会には、地元の保育園から園児達が歌を歌いに来てくれたり、大学で花を育てた学生達が、その花を届けてくれたりしている。又、周辺の清掃活動などを通じて、近隣地域の方々との交流も積極的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的や意義は理解されており、自己評価や外部評価の課題を明らかにして全職員で改善に向けて取り組んでいる。自己評価の実施に当たっては、全職員が参加し、ミーティングを重ね各ユニットの評価を一つにまとめたものとなっている。		自己評価に当たっては、各ユニット毎の実情を評価に表現し、各ユニットの個性や特徴がうかがえる、それぞれの自己評価となることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで開催されている。構成メンバーは、行政職員・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族・利用者・ホーム管理者及び事務長・職員となっている。又、運営推進会議で認知症などの勉強する機会をもうけ、サービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや民生委員の協力を得ながら利用者へのサービス向上に取り組んでいる。行政に対しても施設運営に必要な対応策や家族からの質問などを何でも相談し、「ホーム便り」は毎回直接手渡しに出向くなど、情報交換に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に日頃の暮らしぶりや健康状態を伝え、必要に応じて電話連絡等も行っている。利用者一人ひとりの様子を詳しく記した「日々の様子」を家族に送付しており、内容は(食事・排泄・入浴・睡眠・活動・医療健康・他)項目別に分かり易くまとめられている。又「ホーム便り」も、季節毎に年4回発行され送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情連絡先(事業所と第三者機関)を重要事項説明書に明記し、家族の面会や報告時に意見や要望を気軽に話せる環境づくりを心がけている。意見等は細かく管理され、ミーティングで話し合われ運営に活かされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	約5～6ヶ月に1回、職員の労働条件の平等化として、2階と3階のユニット間で職員が一人ずつ交替している。この異動により、異なるユニットでも利用者との馴染みの関係が築けるようになっている。離職などがあった場合は、新旧職員の同時サポート期間(2週間)をもうけ、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が年1回の外部研修を受講できるよう配慮されている。「去年は、介護福祉士、今年、ケアマネジャーの資格修得」など積極的にスキルアップを目指している職員もいる。又、毎月1回実務に即したホーム内研修も実施され、職員を育成している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内事業者で構成されている「事業所懇談会」に所属し、情報交換や勉強会、相互訪問等が行われ、評価で問われていることを実行している。このような交流は、有志職員が休日などの勤務時間外に個人的に行っている。		ホームのサービスの向上のため、事務長をはじめ一般職員まで含めて、ホームとしての取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には、利用者宅やホームでの面談及び、ホームの見学を行っている。利用者に不穏のある時は、家族に協力を得て一時帰宅するなど、無理をせず徐々に馴染める環境作りを心がけている。又、希望があれば、家族の宿泊も可能となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、何を行うにも、お伺いをたてる事を心がけ、料理方法や漢字、行事など一緒に考え支え合う関係にある。理念にも掲げているように、人生の大先輩として尊敬し、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添ったケアを心がけ、利用者と同じ目線で共に過ごす関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での表情や行動、会話などから希望や意向の把握に努めている。又、日々の様子や気づきを日誌に記録し、カンファレンス等で話し合わせ、思いに沿ったケアが出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・職員・医療機関など十分に話し合い、それぞれの意見や要望、アイデアを取り入れて、介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に確認と署名をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回の見直しを行っている。簡単なモニタリングは日々行われて記録されている。介護計画の急な変更が必要な時は、本人・家族・職員・医療機関と話し合い、その都度現状に即した新たな介護計画を作成している。又、介護計画の達成度の記録も残している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の医療連携体制、通院、外出、一時帰宅など、本人や家族の状況に応じて、可能な限り柔軟な支援を行っている。家族の宿泊も可能となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	建物内にクリニックがあり、24時間の医療連携体制及び、週1回の定期診療や一人ひとりの状態に応じたりハビリ受診を支援している。看護師の資格を有する職員がおり、緊急時の対応にも安心でき心強い。又、本人・家族の希望する医療機関への受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から、本人・家族・医療機関をはじめ、関係者と最善の対応策について話し合い方針を共有している。重度化及び終末期ケア対応方針を定め、家族が希望すれば、終末期ケアを行う方向で対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちを第一に考え、言葉かけや対応には充分配慮している。プライバシー確保や個人情報の取扱いについては、ミーティングを重ね職員の意識向上とルール遵守を徹底させている。ホーム便り等の写真掲載には、必ず同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のスケジュールはあるが、利用者のペースや生活スタイルを尊重し、入浴時間の希望や散歩など、要望に出来る限り添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態や希望により、食事の盛り付けや片付けなど職員と一緒にしている。食事は業者に委託しているが、金曜日の昼食は「手作りの日」となっており、利用者のリクエストメニューが職員によって手作りされ、楽しみの一つとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴可能となっている。入浴を嫌がる利用者には、入浴に誘うタイミングの工夫をするなど、最低でも週2回は入浴してもらえるよう支援している。又、通常の入浴が不可能な利用者の為に特殊浴槽も設置されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族から生活歴や趣味などを聞き、出来る事・やりたい事を見極め、一人ひとりに合った役割や出番を用意している。季節行事やボランティアによる月2回の「おりがみ教室」、習字や屋上での野菜作り、お誕生日会では手作りケーキでもてなすなど、楽しみ事や気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、買い物や散歩など職員と共に出かけている。屋上のガーデニングスペースは、車椅子に乗ったまま野菜や花の手入れが出来るようになっており、とても工夫されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害は理解しており、居室も玄関も鍵はかけられていない。施錠は夜間のみとされ、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。避難方法や経路確認、避難器具の確認をしている。連絡網作成して夜間災害時にも備えている。ミーティング等で、近隣住民への協力要請などの話は出ているが、具体的な協力が得られる体制には至っていない。	○	夜間を想定した利用者も含めた避難訓練、無理な所はシミュレーションで実施し、問題がないか確認されることを望みたい。近隣住民の協力が必要であれば合わせて、その体制づくりも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者によるメニューと食材となっており、魚であれば骨が除いてあるなど安全面と栄養管理がされた食事となっている。又、嚥下機能に応じた食事形態の対応もされている。食事や水分摂取量は記録され把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られた玄関から、廊下・リビング・対面キッチン・浴室など全てバリアフリーとなっており、明るく十分な広さとなっている。廊下の天井近くには、リラクゼーション効果や消臭効果などがある炭が美しく貼られアクセントにもなっていて、木の温もりと和の調和が心地良い。各所に季節感のある飾りや利用者の作品なども飾られ、居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの収納家具や洗面台があり、便利で快適な部屋である。さらに利用者の使い慣れた生活用品が持ち込まれ、思い思いの品などが自由に飾られ、居心地の良い明るく清潔感のある居室となっている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組ん でいることも含 む)
--	-----	---------------------------------	------------------------	---

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の皆様との関わりを大切にし、地域に溶け込みながら暮らし続けて頂けるよう、理念に挙げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の朝礼の場で、理念を読み返し、日々の介護に活かすよう、再確認を行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所の理念を広報紙に掲載し、家族や地域の人々の目に入るように努めている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事やレクリエーション（折り紙教室）等の際に、お誘いして足を運んでいただいている。	○	気軽に立ち寄って頂けるような、日常的な付き合いが出来るように、少しずつ交流範囲を広げていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	参加可能な行事やセミナーに、利用者の方と共に参加したり、行事で近隣の保育園児と交流している。	○	入居者の方々も園児に会えるのを楽しみにされているので、今後継続していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	話し合いは行っているが、具体的になっていない。	○	「認知症アドバイザー」として依頼があれば協力したい。 職場体験の依頼があれば協力したい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価を踏まえて次回の評価までに改善できるよう努めている。	○	改善点を確認しながら積極的に行っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者やサービスの実際、認知症介護に関連した状況等について意見交換を行い、意見を参考にサービス向上に活かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	公的サービスについての情報を得たい時や解決できない家族からの質問があるときなど、市町に相談しサービスの向上に活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	勉強会などで学ぶ機会を持っているが、必要としている人が、身近にいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に1回虐待防止法関連法についての勉強会を行い、虐待が見過ごされることがないように努めている。		
4 理念を実践するための体制				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際に、入居者契約書・重要事項説明書の十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	毎日の暮らしの中で、言葉、様子から思いを受け止め、職員全員で話し合い、早期解決に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、「日々の様子」を記入しご家族に郵送している。また面会時や電話などで報告している。変化があればそのつど電話で連絡をとっている。金銭に関しては、預かりを行わず立て替えを行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。又、意見・不満・苦情などは、管理者より職員に伝達し、改善に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員個々の面接や毎日の日常会話から意見を聞き、ミーティングを通して検討し反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	受診の付き添いなど利用者の状況の変化や要望に対応する為、勤務の調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は、1～2名単位で行い、職員が変わっても不安にならないよう、又、同じサービスが受けられるようにと努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	------------------------	-------------------------------------

5 人材の育成と支援

19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に1度職員は外部の研修に交替で参加している。 また、月1回内部研修を行っている。	○	年度初めに計画を立て無駄の無い研修をしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流の機会は設けていないが、研修で知り合った者同志の交流や、希望された方には推進会議への出席や施設見学をしていただいている。	○	同業者、職員との交流、研修の機会を設けるように考えていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	今のところ決めて行っていないが、定期的に食事会や運営者を含めたミーティングを開き、職員が直接、話ができる機会を設けている。		

22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	考課表（自己評価・他己評価）を元に職員個々に面接を行っている。		
----	--	---------------------------------	--	--

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	環境が変わることでの不安に配慮し、訴えを傾聴し、十分に話し合いをすることで、不安の除去に努めている。 (ここ1年新しく入られた利用者はおられない。)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族との十分な面接を行うことにより、少しでも、不安や不信感が残らないように努めている。(ここ1年新たに利用された方はおられない。)		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の求められている支援について、十分話し合い、他のサービスが適切と判断されるような状況であれば、そのサービスの紹介や申し込みなどを、行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご本人も含め、見学に来て頂き、ご自宅又は、ホームで面接を行っている。又、入居後、不穏のある場合は家族の協力を得て、自宅に戻るなど、徐々に馴染めるように工夫している。(ここ1年新たに入居された利用者はおられない。)		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	わからない事(料理方法、漢字、行事等)があれば、利用者と職員と一緒に考えたり、利用者の方に教えて頂いている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家人の立場をよく理解するように努め、積極的に情報交換をしていく中で、行事に参加していただいたりしながら、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの、関係を理解した上で、本人と家族が共に過ごされる面会や行事で会話によるコミュニケーションを行いより良い関係を築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家人や友人等が気軽に来て頂けるような雰囲気づくり、言葉かけに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事、行事や外出時など職員が気を配り、利用者同士が話したり、関わり合えるように努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された後、一度電話でご家族の様子を聞くようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向や希望を良く聞き、把握に努め、本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の生活歴を知ることが、これからの支援に繋がっていくと全職員が理解している。記録類、利用者、家族などの会話から情報を得て、共有している。	○	書類の充実を図っていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録、申し送りの中から、状態を把握出来る様に努めている。会議、日々のミーティング等で、利用者の現状を話し合い検討している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	課題とケアのあり方について、必要な関係者と話し合い、意見を取り入れ、計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は定期的に見直しを行うと共に、状態に変化のあった時は、本人や家族、必要な関係者と話し合い、意見を取り入れた計画を作成している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活記録や申し送り表を活用し、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。	○	個人記録用紙の内容を見直し、介護計画を日々読むことが出来、実施項目のチェックや記録が出来るようにしている。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご希望があれば、外出付き添い・他科受診送迎など、その都度臨機応変に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	推進会議に、自治会長、民生委員の方たちに参加していただき、協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて、訪問歯科、訪問理美容などの利用が出来るように、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ケースが発生した場合は運営推進会議等で地域包括支援センターに説明を求めるなど、連携を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望を大切にし、適切な医療が受けられるように、支援している。かかりつけ医院が、同じ建物にあり、迅速な対応を得られている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医や精神科医との関係を築き、相談したり、認知症に関する診断や治療を受けられるよう、支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員に看護師の有資格者がおり、クリニックと連携し、健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	必要に応じて、入院時も訪問し、早期退院に向け、グループホームで生活できるように、連携を取り合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重症化した場合や終末期のあり方について、かかりつけ医・家族と話し合い、職員全員で方針を共有している。	○	状態が変化するたびに、かかりつけ医、家族、職員と話し合いを持つようになっている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入所時の希望、利用者・家族の希望に出来るだけ添ったサービスに努めている。その為にも家族、かかりつけ医職員の全員で、情報を共有し、連携している。	○	定期的に利用者、家族の要望を聞き、ケアプランに反映している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	住み替えの時は、関係者と十分な話し合いや情報を書面で交換し、住み替えによるダメージを除く努力をしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組ん でいることも含 む)
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者に対しての言葉かけや対応には、十分配慮している。又、職員間で話し合いを持ち、個人情報の取り扱いは、慎重に対応している。(広報誌の写真の掲載時は、同意を得て載せている。)		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の思いや希望を会話、表情の中から引き出していくよう、又、表出しやすいように働きかけを行っている。その人がその人らしく暮らしていけるよう、支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の大まかな流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、出来るだけ希望に添うように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	更衣時、利用者の方の好みの洋服を聞き、それを着ていただいている。又、訪問理美容の方が来られて希望者は、カット、毛染め等を行っている。外の理美容院を希望される方は、お連れしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	体調、状態を考慮すると、盛り付けをしていただく利用者が限られるので、無理の無いようお願いしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物の好みは、把握し提供している。タバコは、当所では、禁止なので持ち込みされていない。月4～5回は、外食、手作り料理など希望を聞き、楽しんでいただいている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄コントロールが必要な利用者の方には、排泄表に記入し、排泄パターン、習慣を把握し、トイレへの声かけ、支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	大まかに曜日は、決まっているが、一人ひとりの体調の変化や習慣、希望に添って入浴していただくように、支援している。又、入浴を拒否される方には、時間や声かけの方法を変えて、納得して入浴していただくようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりが好きな事、自分の思いで過ごしていただいている。昼夜逆転傾向の方がおられるが、なるべく訪室を頻回にし、寄り添うことにより安心して入眠していただけるように、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者、ご家族の方から情報を得ることで生活歴を知り、本人の力を見極めながら、支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設の方針により、立て替えとしているので、入居者の方の大半は、お金を所持されていない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望に添って、天候の良い日は戸外に出られるように、支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	利用者の希望を聞き、実現可能な限り出かけられるように支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者本人が希望される場合、電話をかけたり、年賀状を書いたりし、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来所の際は、お飲み物をお出ししたり、3時の時には、利用者の皆さんと共に過ごしていただき、リラックスしていただけるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議や申し送り時等、身体拘束について話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、ほとんどの時間を居室も玄関も全て、オープンにしている。見守りを重視し、対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者の所在がわかるように努めているが、その場を離れる時は、職員同士で声をかけ合い、所在がわかるようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて危険であるかどうかを職員間で話し合い危険を防ぐ取り組みを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故が起きた場合の事故報告書やヒヤリハットノートを活用し職員全員で話し合い再発防止に努めている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	利用者の急変時に備えて、マニュアルを作成し、目に付きやすいところに設置している。	○	今後も定期的に講習を受けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練に家族の方や地域の方に参加していただきアドバイスをいただいたことがある。運営推進会議で地域の方に協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や電話で一人ひとりのリスクについて家族に説明し抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応について話し合い実行している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調の変化や異常の発見が出来るよう日々観察を行っている。かかりつけ医とはすぐ連絡が取れるようになっており、情報の共有化を図り対応している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人ひとりの薬効のファイルを作成し、職員全員が理解しやすいようにしている。症状の変化の確認に努め、変化があればその都度かかりつけ医に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘の方の排泄時間や状態を記録し、排便促進に役立てており、予防と対応のために利用者に合った飲食物の工夫を行ったり身体を動かす働きかけを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後利用者に声をかけ、一人ひとりの口腔状態や力に応じて口腔ケアの支援を行っている。また、定期的または必要時に往診を依頼している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量・水分摂取量を記録し、疾患、検査結果、習慣などを考慮しながら一人ひとりに合った支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	かかりつけ医の指導により感染症に対する予防や取り決めを行い実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や布巾は毎日消毒し、また手洗いを励行している。食事は殆ど配達をお願いしているが、手作りの際には新鮮で安全な食材を使用し食中毒の予防に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の入り口に植物を置き、玄関には書、花、置物などを飾り、親しみがあり安心していただけるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は利用者や家族の方が製作された季節ごとの作品、習字、絵画やタペストリー、写真などを飾り、楽しんでいただけるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの食卓やソファで利用者は気の合った人達で話したり、一人になったりして自由にくつろいでいただけるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に馴染みのものを持参していただくよう説明しているが新しく購入される家族が多い。小物類は使い慣れた物、好みの物を持参されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室不在時や掃除のときなどは、窓を開け換気を行っている。温度調節は利用者の状況に合わせてたり聞いたりしてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング、廊下、トイレ、風呂場などに手すりや滑り止めが設置しており、利用者の安全な生活が送れるように工夫している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8 6	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりのわかる力に合わせた見守り、介助が出来るよう情報の共有を行い、混乱や失敗を防ぐように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	出来る方にはベランダで洗濯物を干していただいたり、共に植えた植物の世話をさせていただきながら、また車椅子の方にも出ていただき楽しんだり活動できる場として活かしている。	○	庭園、菜園を作り、入居者の方と、お花に水やりをしたり、野菜を収穫したりして楽しんでいる。

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ✓ ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ✓ 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② ✓ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ✓ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ✓ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ✓ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② ✓ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ① ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ② 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> ③ たまに <input type="checkbox"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> ① 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> ② 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③ あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input checked="" type="checkbox"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ② 家族等の2/3くらいの <input type="checkbox"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="checkbox"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組ん でいることも含 む)
--	-----	---------------------------------	------------------------	---

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の皆様との関わりを大切にし、地域に溶け込みながら暮らし続けて頂けるよう、理念に挙げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の朝礼の場で、理念を読み返し、日々の介護に活かすよう、再確認を行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所の理念を広報紙に掲載し、家族や地域の人々の目に入るように努めている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事やレクリエーション（折り紙教室）等の際に、お誘いして足を運んでいただいている。	○	気軽に立ち寄って頂けるような、日常的な付き合いが出来るように、少しずつ交流範囲を広げていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	参加可能な行事やセミナーに、利用者の方と共に参加したり、行事で近隣の保育園児と交流している。	○	入居者の方々も園児に会えるのを楽しみにされているので、今後継続していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	話し合いは行っているが、具体的にない。	○	「認知症アドバイザー」として依頼があれば協力したい。 職場体験の依頼があれば協力したい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価を踏まえて次回の評価までに改善できるよう努めている。	○	改善点を確認しながら積極的に行っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者やサービスの実際、認知症介護に関連した状況等について意見交換を行い、意見を参考にサービス向上に活かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	公的サービスについての情報を得たい時や解決できない家族からの質問があるときなど、市町に相談しサービスの向上に活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	勉強会などで学ぶ機会を持っているが、必要としている人が、身近にいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に1回虐待防止法関連法についての勉強会を行い、虐待が見過ごされることがないように努めている。		
4 理念を実践するための体制				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際に、入居者契約書・重要事項説明書の十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	毎日の暮らしの中で、言葉、様子から思いを受け止め、職員全員で話し合い、早期解決に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、「日々の様子」を記入しご家族に郵送している。また面会時や電話などで報告している。変化があればそのつど電話で連絡をとっている。金銭に関しては、預かりを行わず立て替えを行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。又、意見・不満・苦情などは、管理者より職員に伝達し、改善に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員個々の面接や毎日の日常会話から意見を聞き、ミーティングを通して検討し反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	受診の付き添いなど利用者の状況の変化や要望に対応する為、勤務の調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は、1～2名単位で行い、職員が変わっても不安にならないよう、又、同じサービスが受けられるようにと努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	------------------------	-------------------------------------

5 人材の育成と支援

19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に1度職員は外部の研修に交替で参加している。 また、月1回内部研修を行っている。	○	年度初めに計画を立て無駄の無い研修をしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流の機会は設けていないが、研修で知り合った者同志の交流や、希望された方には推進会議への出席や施設見学をしていただいている。	○	同業者、職員との交流、研修の機会を設けるように考えていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	今のところ決めて行っていないが、定期的に食事会や運営者を含めたミーティングを開き、職員が直接、話ができる機会を設けている。		

22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	考課表（自己評価・他己評価）を元に職員個々に面接を行っている。		
----	--	---------------------------------	--	--

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	環境が変わることでの不安に配慮し、訴えを傾聴し、十分に話し合いをすることで、不安の除去に努めている。 (ここ1年新しく入られた利用者はおられない。)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族との十分な面接を行うことにより、少しでも、不安や不信感が残らないように努めている。(ここ1年新たに利用された方はおられない。)		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の求められている支援について、十分話し合い、他のサービスが適切と判断されるような状況であれば、そのサービスの紹介や申し込みなどを、行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご本人も含め、見学に来て頂き、ご自宅又は、ホームで面接を行っている。又、入居後、不穏のある場合は家族の協力を得て、自宅に戻るなど、徐々に馴染めるように工夫している。(ここ1年新たに入居された利用者はおられない。)		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	わからない事(料理方法、漢字、行事等)があれば、利用者と職員と一緒に考えたり、利用者の方に教えて頂いている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家人の立場をよく理解するように努め、積極的に情報交換をしていく中で、行事に参加していただいたりしながら、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの、関係を理解した上で、本人と家族が共に過ごされる面会や行事で会話によるコミュニケーションを行いより良い関係を築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家人や友人等が気軽に来て頂けるような雰囲気づくり、言葉かけに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事、行事や外出時など職員が気を配り、利用者同士が話したり、関わり合えるように努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組ん でいることも含 む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された後、一度電話でご家族の様子を聞くようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向や希望を良く聞き、把握に努め、本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の生活歴を知ることが、これからの支援に繋がっていくと全職員が理解している。記録類、利用者、家族などの会話から情報を得て、共有している。	○	書類の充実を図っていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録、申し送りの中から、状態を把握出来る様に努めている。会議、日々のミーティング等で、利用者の現状を話し合い検討している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	課題とケアのあり方について、必要な関係者と話し合い、意見を取り入れ、計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は定期的に見直しを行うと共に、状態に変化のあった時は、本人や家族、必要な関係者と話し合い、意見を取り入れた計画を作成している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活記録や申し送り表を活用し、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。	○	個人記録用紙の内容を見直し、介護計画を日々読むことが出来、実施項目のチェックや記録が出来るようにしている。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご希望があれば、外出付き添い・他科受診送迎など、その都度臨機応変に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	推進会議に、自治会長、民生委員の方たちに参加していただき、協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて、訪問歯科、訪問理美容などの利用が出来るように、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ケースが発生した場合は運営推進会議等で地域包括支援センターに説明を求めるなど、連携を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望を大切にし、適切な医療が受けられるように、支援している。かかりつけ医院が、同じ建物にあり、迅速な対応を得られている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医や精神科医との関係を築き、相談したり、認知症に関する診断や治療を受けられるよう、支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員に看護師の有資格者がおり、クリニックと連携し、健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	必要に応じて、入院時も訪問し、早期退院に向け、グループホームで生活できるように、連携を取り合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重症化した場合や終末期のあり方について、かかりつけ医・家族と話し合い、職員全員で方針を共有している。	○	状態が変化するたびに、かかりつけ医、家族、職員と話し合いを持つようになっている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入所時の希望、利用者・家族の希望に出来るだけ添ったサービスに努めている。その為にも家族、かかりつけ医職員の全員で、情報を共有し、連携している。	○	定期的に利用者、家族の要望を聞き、ケアプランに反映している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えの時は、関係者と十分な話し合いや情報を書面で交換し、住み替えによるダメージを除く努力をしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者に対しての言葉かけや対応には、十分配慮している。又、職員間で話し合いを持ち、個人情報の取り扱いは、慎重に対応している。(広報誌の写真の掲載時は、同意を得て載せている。)		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の思いや希望を会話、表情の中から引き出していくよう、又、表出しやすいように働きかけを行っている。その人がその人らしく暮らしていけるよう、支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の大まかな流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、出来るだけ希望に添うように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	更衣時、利用者の方の好みの洋服を聞き、それを着ていただいている。又、訪問理美容の方が来られて希望者は、カット、毛染め等を行っている。外の理美容院を希望される方は、お連れしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	体調、状態を考慮すると、盛り付けをしていただく利用者が限られるので、無理の無いようお願いしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物の好みは、把握し提供している。タバコは、当所では、禁止なので持ち込みされていない。月4～5回は、外食、手作り料理など希望を聞き、楽しんでいただいている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄コントロールが必要な利用者の方には、排泄表に記入し、排泄パターン、習慣を把握し、トイレへの声かけ、支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	大まかに曜日は、決まっているが、一人ひとりの体調の変化や習慣、希望に添って入浴していただくように、支援している。又、入浴を拒否される方には、時間や声かけの方法を変えて、納得して入浴していただくようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりが好きな事、自分の思いで過ごしていただいている。昼夜逆転傾向の方がおられるが、なるべく訪室を頻回にし、寄り添うことにより安心して入眠していただけるように、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者、ご家族の方から情報を得ることで生活歴を知り、本人の力を見極めながら、支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設の方針により、立て替えとしているので、入居者の方の大半は、お金を所持されていない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望に添って、天候の良い日は戸外に出られるように、支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	利用者の希望を聞き、実現可能な限り出かけられるように支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者本人が希望される場合、電話をかけたたり、年賀状を書いたりし、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来所の際は、お飲み物をお出ししたり、3時の時には、利用者の皆さんと共に過ごしていただき、リラックスしていただけるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議や申し送り時等、身体拘束について話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、ほとんどの時間を居室も玄関も全て、オープンにしている。見守りを重視し、対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者の所在がわかるように努めているが、その場を離れる時は、職員同士で声をかけ合い、所在がわかるようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて危険であるかどうかを職員間で話し合い危険を防ぐ取り組みを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故が起きた場合の事故報告書やヒヤリハットノートを活用し職員全員で話し合い再発防止に努めている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	利用者の急変時に備えて、マニュアルを作成し、目に付きやすいところに設置している。	○	今後も定期的に講習を受けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練に家族の方や地域の方に参加していただきアドバイスをいただいたことがある。運営推進会議で地域の方に協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や電話で一人ひとりのリスクについて家族に説明し抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応について話し合い実行している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調の変化や異常の発見が出来るよう日々観察を行っている。かかりつけ医とはすぐ連絡が取れるようになっており、情報の共有化を図り対応している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人ひとりの薬効のファイルを作成し、職員全員が理解しやすいようにしている。症状の変化の確認に努め、変化があればその都度かかりつけ医に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘の方の排泄時間や状態を記録し、排便促進に役立てており、予防と対応のために利用者に合った飲食物の工夫を行ったり身体を動かす働きかけを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後利用者に声をかけ、一人ひとりの口腔状態や力に応じて口腔ケアの支援を行っている。また、定期的または必要時に往診を依頼している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量・水分摂取量を記録し、疾患、検査結果、習慣などを考慮しながら一人ひとりに合った支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	かかりつけ医の指導により感染症に対する予防や取り決めを行い実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や布巾は毎日消毒し、また手洗いを励行している。食事は殆ど配達をお願いしているが、手作りの際には新鮮で安全な食材を使用し食中毒の予防に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の入り口に植物を置き、玄関には書、花、置物などを飾り、親しみがあり安心していただけるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は利用者や家族の方が製作された季節ごとの作品、習字、絵画やタペストリー、写真などを飾り、楽しんでいただけるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの食卓やソファで利用者は気の合った人達で話したり、一人になったりして自由にくつろいでいただけるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に馴染みのものを持参していただくよう説明しているが新しく購入される家族が多い。小物類は使い慣れた物、好みの物を持参されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室不在時や掃除のときなどは、窓を開け換気を行っている。温度調節は利用者の状況に合わせてたり聞いたりしてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング、廊下、トイレ、風呂場などに手すりや滑り止めが設置してあり、利用者の安全な生活が送れるように工夫している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8 6	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりのわかる力に合わせた見守り、介助が出来るよう情報の共有を行い、混乱や失敗を防ぐように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	出来る方にはベランダで洗濯物を干していただいたり、共に植えた植物の世話をさせていただきながら、また車椅子の方にも出ていただき楽しんだり活動できる場として活かしている。	○	庭園、菜園を作り、入居者の方と、お花に水やりをしたり、野菜を収穫したりして楽しんでいる。

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ✓ ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ✓ 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② ✓ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ✓ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ✓ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ✓ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② ✓ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ <input checked="" type="checkbox"/> たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② <input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目